

中年者の健康状態について

State of Health of Middle-age Person

櫛笥隆弘・若原延子*・沢村恭子**

Takahiro K_{USHIGE}, Nobuko W_{AKAHARA}* and Kyoko S_{AWAMURA}**

(Received September 16, 1983.)

In recent years, the contraction of a disease and the death of sickness that have much influence on dietary life increase in the middle-age person, born in one figure of Showa. The authors investigated their consciousness of health and dietary life, the state of health, and the action of dietary life and others on 1000 middle-age persons, in order to obtain the basic data that are useful to increasing of the attention to nutritive problem and are helpful to spread the thought of "Promotion of Health". The results obtained are as follows ;

1. Many people have normal values in obesity degree but the distribution incline a little toward the fatness.
2. The rate of hypertensive is 12% and the border of hypertension is even 26% except the indistinctness. In the first half of the 50's of the age the border is clearly increased as compared with that in the latter half of the 40's.
3. The number of times of measuring of the blood pressure is more than twice a year and less than once a month, and the place of measuring is usually in a hospital.
4. The diseases attacked in the last five years are plenty of stomach-duodenal ulcer and hypertension.
5. Many people take the medical advices on the diseases of stomach and breast, on the other hand few people on the heart-vascular.

*鹿児島純心女子短期大学**鹿児島女子短期大学

* *Kagoshima Junshin Women's Jr. College.*

** *Kagoshima Women's Jr. College.*

緒 言

成人病に対する関心は年ごとに高まり、栄養指導面においても主要事項の一つとされている。脳卒中、がん、心臓病など、これら成人病による死亡は、昭和55年の現状によれば鹿児島県においても全死亡の62.0%を占め、さらに増加の傾向にある。⁽¹⁾ また近年、中年一特に昭和1ケタ生まれ一の食生活と関連の深い疾病の罹患や死亡が増加してきている現状である。

そこで、著者らは、栄養に対する関心と健康づくり思想の普及を図るための基礎資料を得るために、健康や食生活に対する意識、健康状態、及び食生活行動等について調査研究をおこなった。本報は、その内の健康管理の方法や疾病状況に関する基礎資料を提供し、栄養改善に資することを目的とするものである。

調 査 方 法

調査対象者は、鹿児島県下全域で普通の生活を営んでいると推定される昭和1ケタ生まれの中年者（46才～55才）の男女、計 1,000人である。対象者の性別、年齢別、地域別、職業別人員は、表1 および表2 のとおりである。

調査方法は健康管理の方法や疾病状況についての質問項目をもうけ、「直接聞き取り法」でおこなった。肥満度判定には箕輪式⁽²⁾の身長別体重表⁽³⁾を標準体重として用いた。調査員には県内の栄養士養成施設学生 208名をあてた。調査期間は昭和56年8月中とした。なお、調査対象者の性別、年齢別、地域別の体位表は表3 のとおりである。

表1 調査対象の性別・年齢別・地域別人員

() は%

年 齢 別	性別	鹿児島市	南 薩	北 薩	大 隅	離 島	計
46～50才	男子	117(37.7)	47(15.2)	41(13.2)	91(29.4)	14(4.5)	310(100)
	女子	136(40.0)	53(15.6)	47(13.8)	82(24.1)	22(6.5)	340(100)
	計	253(38.9)	100(15.4)	88(13.5)	173(26.7)	36(5.5)	650(100)
51～55才	男子	91(42.7)	23(10.8)	34(16.0)	46(21.6)	19(8.9)	213(100)
	女子	51(37.2)	23(16.8)	23(16.8)	32(23.4)	8(5.8)	137(100)
	計	142(40.6)	46(13.1)	57(16.3)	78(22.3)	27(7.7)	350(100)
累 計	男子	208(39.8)	70(13.4)	75(14.3)	137(26.2)	33(6.3)	523(100)
	女子	187(39.2)	76(15.9)	70(14.7)	114(23.9)	30(6.3)	477(100)
合 計		395(39.5)	146(14.6)	145(14.5)	251(25.1)	63(6.3)	1,000(100)

橿弓：中年者の健康状態について

表 2 調査対象の職業別・性別人員

() は%

	常用 労務者	日雇 労務者	勤労職員	自営・商 人・職人	農林・ 漁夫	自由業・ その他	家事 従事者	無職・ その他	計
男 子	93(17.7)	0 (0)	242(46.3)	96(18.4)	71(13.6)	11 (2.1)	0 (0)	10 (1.9)	523(100)
女 子	44 (9.2)	2 (0.4)	38 (8.0)	53(11.1)	58(12.2)	8 (1.7)	264(55.3)	10 (2.1)	477(100)
合 計	137(13.7)	2 (0.2)	280(28.0)	149(14.9)	129(12.9)	19 (1.9)	264(26.4)	20 (2.0)	1,000(100)

結 果 と 考 察

1 身体状況

(1)肥満度 性別，年齢別，地域別による肥満度は表3に示したとおりである。すべて100%をオーバーしていたが，表4に示した昭和56年国民栄養調査成績⁴⁾による体位から標準体重による肥満度を算出すると，40～49才男子 109.9%，女子 109.1%，50～59才男子 107.7%，女子 105.4%となる。したがって調査対象者の肥満度は，これら全国平均の肥満度と比較すると県の51～55才女子の値がやや大きい，全般的にはほとんど変らなかった。

表 3 調査対象の体位

	男 子							女 子						
	身 長 (cm)		体 重 (kg)		肥満度 (%)			身 長 (cm)		体 重 (kg)		肥満度 (%)		
	人数	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
	523	164.3	6.0	61.2	8.0	107.7	12.4	477	152.8	4.6	52.9	7.3	106.7	14.3
年 齢 別														
46～50才	301	164.5	6.0	61.8	8.0	108.6	12.1	310	153.0	4.5	52.0	7.0	106.0	14.6
51～55才	222	164.0	5.9	60.4	8.0	106.5	12.7	167	152.4	4.8	52.9	7.7	106.7	13.6
地 域 別														
市 内	209	165.5	5.8	61.8	7.7	107.4	12.5	187	152.9	4.4	53.1	6.8	105.7	14.4
南 薩	70	163.2	5.4	60.1	7.6	106.9	11.2	76	152.9	4.8	53.2	8.0	106.8	14.3
北 薩	73	164.0	6.0	61.5	8.5	108.4	13.6	70	152.6	4.7	52.0	6.3	105.3	12.0
大 隅	138	164.0	5.7	60.8	8.3	107.5	12.3	114	153.2	4.4	52.7	7.5	105.7	13.4
離 島	33	161.7	5.2	62.2	10.5	112.3	15.6	30	150.7	5.5	54.6	7.9	112.7	19.8

地域別による肥満度別分類をみると，図1に示すように過半数が正常であるが，分布状況は「やせ」域よりも「肥満」域へ偏っていた。地域別では離島に肥満者が多く，特に離島では，女子の36.7%が肥満者であった。図に示してないが，職業別にみると肥満の多いのは自

表 4 昭和56年国民栄養調査成績

		身長 (cm)	体重 (kg)	血 圧 (%)			
				高血圧	境界域	正 常	低血圧
40～49才	男子	163.3	61.8	17.1	24.3	58.5	0.1
	女子	152.0	53.7	11.1	18.5	70.3	0.1
50～59才	男子	161.5	59.3	23.2	29.3	47.5	—
	女子	149.7	52.4	23.1	28.0	48.7	0.2

由業 (21%) や自営・商人・職人 (20%) で、農林・漁夫 (8.5%) に少なかった。

(2)血圧 血圧は図2に示すように正常者は全体の43.6%で半数弱で

あった。男女別では男子の方がやや高血圧者が多く、地域別では離島の高血圧が20.6%で最も多く、高血圧と境界域を合わせると44.4%にもなった。南薩では高血圧は他地域よりやや少なかった (4.8%)。不明が30.1%で全体の3割にもおよんでいた。また、年齢別では後半代に高血圧、境界域が増加し、他方、不明が減少していた。なお、昭和56年の国民栄養調査⁽⁴⁾の結果によると (表4)、高血圧者は40～49才男子17.1%、女子11.1%、50～59才男子23.2%、女子23.1%である。この結果と比較すると、本調査では、不明者を除去しても、高血圧者の割合は全国の傾向と比較して低いといえる。

図 1 地域別による肥満度別分類

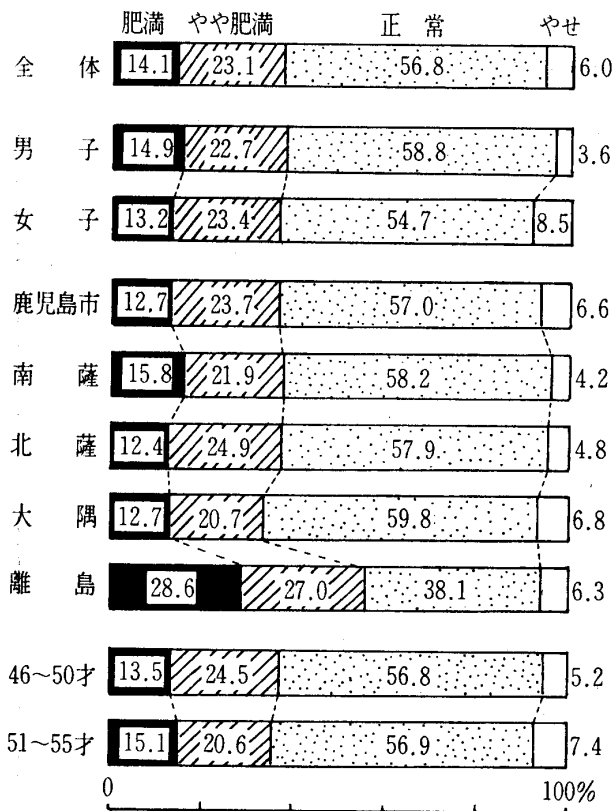
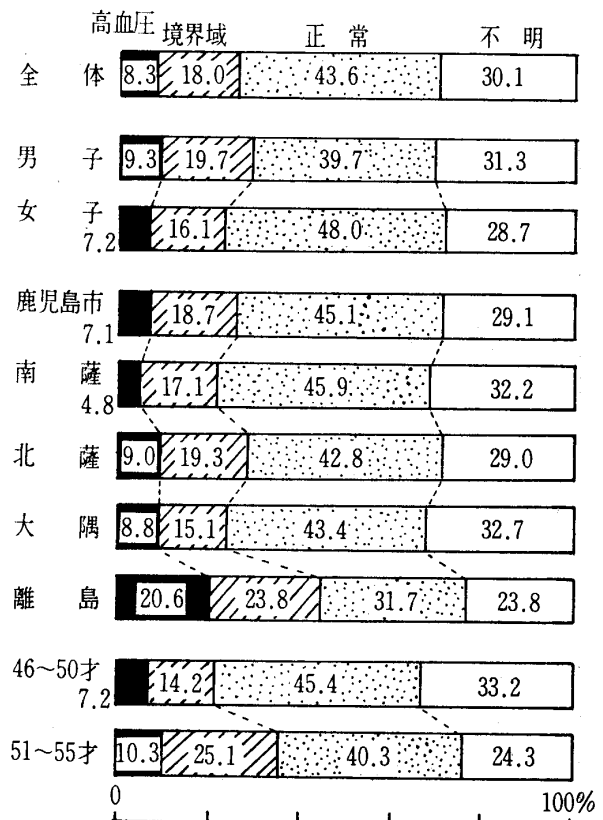


図 2 地域別による血圧分類



注) 肥満……………標準体重+20%以上
 やや肥満……標準体重+10～+20%未満
 正 常……………標準体重-10～+10%未満
 や せ……………標準体重-10%未満

血圧測定回数は、表5のように、年1回の者が、28.3%であったが、年2回以上測定している者が55.5%になる。地域別にみると、毎月1回以上は

鹿児島市（19.3%）に多く、離島（11.2%）に少なかった。また、年齢別では月1回以上は前半代（15.0%）より後半代（20.6%）に増加していた。

血圧測定場所は、男女共に病院が一番多かった（表6）。なお、地域別や職業別の差はほとんど認められなかった。

2. 罹患状況

(1)最近かった病気 最近5ヶ年間にかった病気（表7）では、胃・十二指腸潰瘍（10.2%）、高血圧（8.9%）が多く、次いで貧血症（4.4%）、肝臓病（3.5%）の順であった。性別では男子の肝臓病（5.5%）、糖尿病（5.5%）に対して、女子では貧血症（8.6%）が多かった。

(2)病気の治療 最近5年間にかった病気について治療の有無を調査した結果（表8）では、治療中の者より治療していない者の方が多く、年齢別では後半代になると治療中の者がふえ、治療していない者が減少している様子がうかがえる。なお、職業別による差はみられなかった。

鹿児島県における年次別死亡順位¹⁾をみると、昭和55年のベスト3は、1位・脳血管疾患、2位・悪性新生物、3位・心疾患で、この順位は昭和38年以降昭和55年まで変わっていない。本県の脳血管疾患、悪性新生物、心疾患、高血圧性疾患の死亡率は、ともに昭和40年までに全

表5 血圧測定回数

(%)

	全 体	男 子	女 子	46～50才	51～55才
年1回	28.3	27.0	29.8	30.0	25.0
年2回以上12回未満	38.4	42.4	34.2	36.5	42.1
月1回以上	17.1	16.3	17.8	15.0	20.6
不 明	16.2	14.3	18.2	18.3	12.3

表6 血圧測定場所（複数回答あり）

(%)

	全 体	男 子	女 子
病 院	68.4	67.3	69.6
家 庭	8.3	7.6	9.0
そ の 他	13.8	16.3	11.1

表7 最近5年間にかった病気（複数回答あり）

(%)

	全 体	男 子	女 子
胃・十二指腸潰瘍	10.2	13.0	7.1
高 血 圧	8.9	8.6	9.2
貧 血 症	4.4	0.5	8.6
肝 臓 病	3.5	5.5	1.3
糖 尿 病	3.4	5.5	1.0
腎 臓 病	2.7	2.5	2.9
心 臓 病	2.0	2.5	1.4
脳 卒 中	0.2	0.3	0
そ の 他	9.6	8.4	10.9
な し	61.9	62.5	61.2

表8 最近5年間にかった病気の治療

(%)

	全 体	男 子	女 子	46～50才	51～55才
治 療 中	17.3	9.6	7.7	9.2	8.1
治療してない	20.8	10.6	10.8	14.1	6.7

注) %は病気にかからなかった者も含めた調査対象者全員に対する割合。

国平均を上まわり、現在に至っている。年次経過をみても、全国的に心疾患および悪性新生物は死亡数、死亡率ともに増加が目立っている。昭和56年の成人病死亡率（人口10万対）⁽⁵⁾では、本県は脳血管疾患188.1、悪性新生物167.3、心疾患151.3、高血圧性疾患23.8であり、全国は各各134.3、142.0、107.5、13.0である。全国では悪性新生物が1位になって順位が異なったが、どの疾患も本県の死亡率が高い数値を示している。この点に関しては、本県の老年化指数の増大が全国を上まわっている点（全国38.5%，本県56.8%—昭和55年現在—⁽¹⁾）を考慮しなければならないが、諸外国との比較においても、宮尾氏⁽⁶⁾らはWHOの死亡統計^(7,8)から、「粗死亡率でみる限り、わが国の脳卒中死亡率だけが高いのではないが、比較的年齢の若い40～69才の死亡率が欧米諸国に比べて特に高率（約3倍）を示している点、極めて特異的である」としており、食生活と関連の深いこれらの疾患による死亡状況に大いに関心をもたねなければならない。

3. 最近の健康状態

健康状態については、コーネル医学指数を簡易化した健康の指標策定委員会のアンケート法⁽³⁾により、肉体的症候について35問、精神的症候について15問、計50問の質問をした結果、認められた症候のうち、多いものは表9のとおりであった。男女別では、1位は眼の疲労をあげており、これを地域別にみても、1位は眼の疲労で共通していた。さらに、鹿児島市では3位まで肉体的症候があげられ、他地域では2位に心配事があがり、3位に腰痛となった。健康状態を肉体的症候、精神的

表9 最近の健康状態

順位	全 体	男 子	女 子
1	眼 の 疲 労	眼 の 疲 労	眼 の 疲 労
2	心 配 事	カッーとなる	心 配 事
3	腰 痛	腰 痛	腰 痛
4	カッーとなる	心 配 事	目 ま い
5	くたびれる	血 圧	くたびれる

症候別に集計した結果を図3、図4に示した。肉体的症候よりみた健康者は72.5%で、注意と要診の計は27.5%である。男子の方が健康者が多く、女子では5人に1人は要診者であった。

図3 肉体的症候による健康状態

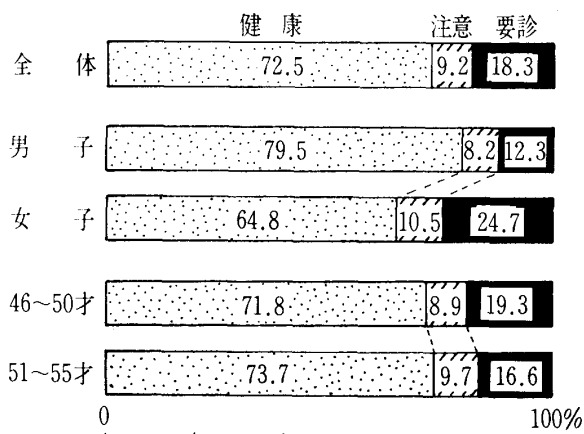
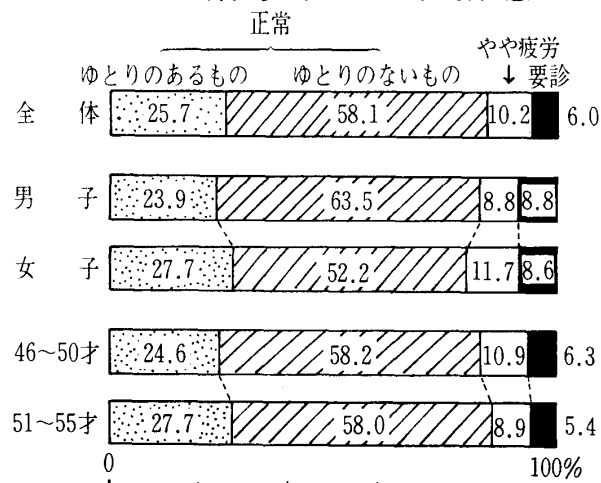


図4 精神的症候による健康状態



精神的症候については、健康者は83.8%であるが、そのうち、精神的ゆとりのない生活を送っているとみられる者が男女とも過半数を占め、やや疲労は10人に1人、要診者も6%みられた。以上のように、肉体的に問題は少なくても、精神的には多くの問題を包含していることがうかがわれた。ここで昭和55年、厚生省がおこなった保健衛生基礎調査の結果⁹⁾を参考までにあげておくと、45～54才の者が自分自身の健康感について、健康であると答えた者が30.1%、普通が56.6%、健康でないが11.8%などとなっている。

4. 検診について

表10 検 診 回 数

(%)

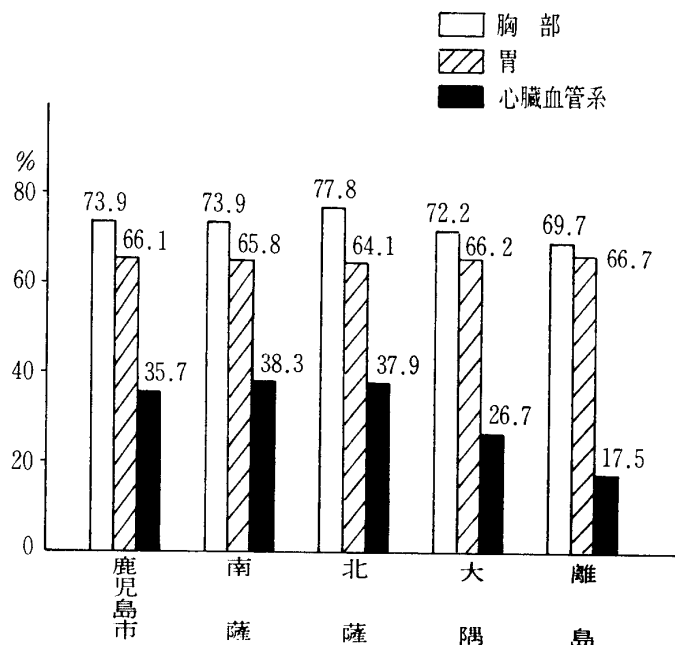
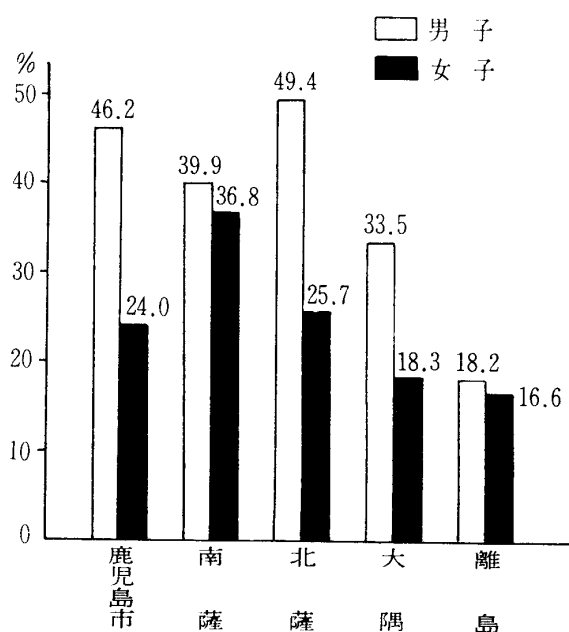
(1)検診回数 表10に示したように、胸部の受診率(73.8%)や胃部の受診率(65.8%)に比較すると、心臓血管系(33.0%)の受診率は低かった。地域別にみると図6のようにな

検 診 回 数	胃			胸 部			心臓血管系		
	全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
年1回未満	6.4	6.9	5.9	2.1	2.5	1.7	4.4	4.2	4.6
年 1 回	51.3	53.9	48.4	62.7	61.8	63.7	24.4	30.6	17.6
年1回以上	8.1	12.2	3.6	9.0	13.6	4.0	4.2	5.9	2.3
受 診 率	65.8	73.0	57.9	73.8	77.9	69.4	33.0	40.7	24.5

る。心臓血管系の受診率を地域別にみると、図5のように離島が最も低くなっていた。また、各検診とも男子の受診率が高い傾向にあり、年齢別では後半代の受診率が増加していた。

図 5 心臓血管系の受診率 (地域別)

図 6 受 診 率 (地域別)



(2)検診を受けた動機・場所

表11 受 診 動 機

(%)

検診を受けた動機は、表11のように定期検診(66.7%)が多く、男女差はほとんどみられなかった。年齢別で

	全 体	男 子	女 子	45～50才	51～55才
定 期 的	66.7	69.8	63.3	64.2	59.4
自 発 的	21.7	20.7	22.9	19.7	25.4
家族にすすめられて	5.3	6.3	4.2	4.8	5.7

は後半代に自発的受診が
増加 (19.7%→25.4%)

していた。

場所は表12と表13に示
した通り、医療機関が一
番多いが、性別では男子
は当然ながら職場 (40.9
%) が多く、女子は男子

に比較して、

市町村 (42.3
%) や保健所
(14.3%) が
多かった。ま
た、年齢別で
は後半代にな
ると市町村が

表12 検 診 場 所 — 1 —

(%)

	全 体	男 子	女 子	45～50才	51～55才
市 町 村	28.9	16.6	42.3	31.1	24.8
保 健 所	10.5	7.1	14.3	10.6	10.3
農 協	3.5	1.7	5.5	3.2	4.0
職 場	26.7	40.9	11.1	25.8	28.3
医療機関	31.6	35.9	26.8	28.0	38.3

表13 検 診 場 所 — 2 —

(%)

	常用労務者	勤労職員	自営・商人・ 職人	農林・漁夫	自由業 その他	家事従事者
市 町 村	11.7	9.6	32.2	51.2	21.1	46.2
保 健 所	10.2	5.7	13.4	5.4	5.3	16.7
農 協	5.1	0.7	2.0	9.3	5.3	3.0
職 場	47.4	64.3	6.0	2.3	15.8	1.5
医療機関	33.6	31.1	37.6	22.5	42.1	30.7

減少し、医療機関が増加する傾向がうかがえた。職業別にみると、常用労務者や勤労職員は職場検診が多く、農林・漁夫や家事従事者は市町村、自営・商人・職人や自由業は医療機関が多い。厚生省の昭和55年調査⁹⁾によれば、健康増進のための要望として「健康診断を受けやすくする」が49.2%もあり、健康診断のあり方にも、より一層の改善が望まれるところである。

要 約

1. 鹿児島県下全域で46～55才の男女 1,000人について、健康管理の方法や疾病状況について調査した。
2. 肥満度については、過半数が正常者であるが、その他のものでは、分布が肥満またはやや肥満側にかたよっている。
3. 自分の血圧を知らないものが約30%もいる。高血圧者は不明者を除けば約12%であるが、境界域のものが26%もいる。40才代後半に比べると50才代前半では境界域者が明らかに増加を示している。
4. 血圧の測定回数は、毎月測定するもの17%、年2回以上12回未満が38%であり、場所は病院が多い。
5. 最近5年間にかった病気では、男女共に胃・十二指腸潰瘍、高血圧が多く、次いで男子は肝臓病、糖尿病、女子は貧血症、腎臓病が多い。脳卒中、心臓病、高血圧症にかかったものは約1割である。

櫛笥：中年者の健康状態について

6. 肉体的症候の注意群は少ないが、精神的症候ではゆとりのないとみられるものが多い。
7. 胃部、胸部の受診率は高いが（70%前後）、心臓血管系の受診率は低い（33%）。また、検診の動機は定期検診が多い。

終りに、本調査に御協力を頂いた被調査員の方々に感謝いたします。本研究の1部は昭和57年10月28日第41回日本公衆衛生学会総会（福岡市）において発表した。また、本研究は鹿児島県から県内3短期大学に委託された調査研究の一部分である。

文 献

- 1) 鹿児島県衛生部：鹿児島県の成人病，No.11（1982）.
- 2) 箕輪真一：日医新報，No.1988（1962）.
- 3) 藤沢良知，山崎文雄：健康・栄養指導，同文書院，東京（1980）.
- 4) 厚生省公衆衛生局栄養課編：国民栄養の現状 昭和56年，第一出版，東京（1983）.
- 5) 厚生省統計協会編：国民衛生の動向・厚生指標・特集，**30**，No.9 厚生統計協会，東京（1983）.
- 6) 宮尾定信編：生活と血圧・医療と保健活動の指標，医歯薬出版，東京（1981）.
- 7) WHO：Annal Epidemiological and Vital Statistics, 1951～1961.
- 8) WHO：World Health Statistics Annal, 1962～1970.
- 9) 厚生省大臣官房統計情報部編：昭和55年保健衛生基礎調査（健康），厚生統計協会，東京（1982）.